

「柔道の特性を理解し、生徒一人一人が、安全に楽しく、意欲的に取り組む柔道の授業づくり」
～地域の指導者との連携を通して～

学 校 名 太良町立大浦中学校（佐賀県）第3学年
全校生徒数 139名（男子70名 女子69名）
種 目 等 武道（柔道）
（本事例に係る問合せ先）
電 話 番 号 0954（68）2029
学校メールアドレス oura_sh@ceres.saga-ed.jp

1 研究のねらい

本研究は、今後の武道（柔道）指導の充実を図るため、安全に配慮した場の設定と指導内容の在り方、地域の指導者の専門的な知識や技術指導力の活用方法について実践研究を行う。

2 研究の取組体制

（1）武道等指導推進協議会を設置し、県教育委員会が実施する「武道等指導推進事業」の円滑な実施を図るため、武道・ダンスの指導の在り方や実施上の課題などについて検討する。

①構成メンバーは、学識経験者、関係団体、地域の武道・ダンスの指導者（代表者）、研究実践校代表、佐賀県教育委員会で組織する。

②推進協議会2回（9月30日/2月4日）、教育委員会主催の実技指導者講習会2回（各3日間）への参加。

（2）地域の指導者と保健体育科教員との打合せ

①単元が始まる前の8月下旬に、地域の指導者と共に内容及び事業計画の確認を行い、10月中旬に具体的な内容の打合せを行った。

②単元期間内に、ねらいの移行時に必要な内容の打合せを行った。

③本事業終了時に研究授業を実施し、授業研究会時に単元のまとめを行った。

3 研究の概要

（1）地域の指導者の協力を得た学習指導の推進

①地域の指導者の指導略歴は、太良町児童生徒の柔道指導、高等学校柔道指導、太良町内中学校部活動柔道指導、佐賀県教育委員会主催「小中高武道（柔道）段位認定講習会」講師。

②資格は、柔道八段、全柔連「都道府県柔道指導者講習会」修了、全柔連「保健体育科武道（柔道）授業を支援する授業協力者養成講習会」修了。

③教員（T1）は、単元計画作成と毎時の授業のめあて、流れの確認及び技術指導、地域の指導者（T2）は、技術面および柔道における専門的な知識や理論の指導・支援。

④教員（T1）は、技能面で初歩的な段階の生徒への指導・支援、地域の指導者は（T2）は、技能レベルが中～高い生徒への指導・支援。

（2）具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

①教員が実技講習会、段位認定講習会で習得した内容を生かし、特性、礼法、基本動作等を地域の指導者と協力（説明・実演）しながら指導した。

②地域の指導者の助言を受け、技の系統性を考慮し、「受」「取」の段階的な技能レベルを表した資料を作成して提示した。

④技の解説資料やDVDビデオなどの活用だけでは、十分な技の習得が望めないため、地域の指導者の経験を生かした指導により、実践的な技能面の習得を容易にできるようにした。

○生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 足さばきが同じ技をまとめ、生徒同士（受・取）が確認できるようにし、「取」が安全で正しい動きができるように、足さばきシート（右足前さばき・右足前回りさばき・左足後さばき・左足後回りさばき）四種類を準備した。
- 2 「取」と「受」の投げ技の取り扱いの相関図を壁面に作成し、技の系統性を考慮しながら、易→難、弱→強、低→高など段階的に示し、自分に合った技を選択しやすいようにした。
- 3 資料やビデオ機器などの活用だけでは、十分な技の習得が望めないため、地域の指導者の専門的な指導により、安全で実践的な技能面の習得を目指した。

○成果の意義と今後の課題

- 1 武道（柔道）の授業を、生徒が安全で楽しく意欲的に活動する手立てとして、まず、正しい足さばきから技をかけられるよう、基本となる「足さばきシート」を4種類準備した。そのことで「技の形と足さばきを覚えることができた」、「スムーズに足を動かすことができた」と、ほとんどの生徒が答えた。次に、「取」と「受」の投げ技の取り扱いの相関図については、「技の難易度などが分かりやすく配置してあったので、自分の実力に応じて、できるようになる技の選択がしやすかった」、「簡単な技（できる技）や難しい技（できない技）が分かって安全にできた」等の回答が得られた。次に、地域指導者による、技の習得に必要なポイントや動きを入れながら実践的な技のかけ方など、専門的な指導により「技を目の前で実際見ることができ、分かりやすかった」、「できなかった技ができるようになった」と生徒は答えた。技を成立させるための過程である「つくり・かけ・投げ」について、専門的な地域の指導者の指導は効果があったと思われる。

以上のように、正しい技のかけ方や受け身の取り方を理解し、生徒が活動していく過程で、自己の能力に合った技を段階的に選択させることができた。さらに、地域の指導者の専門的な見地から安全で意欲的な柔道の授業が実践できたと考える。

- 2 今後の課題としては、生徒が柔道の授業を履修していくなかで、技の習得を安全なものにするために、難易度を考慮しながら技を選択させたが、個人差があるため一律な指導・支援では技の習得が望めないということが分かった。今後は更に個に応じた指導・支援が必要である。また、安全面を考慮し、3年間を見通した上で明確な目標や内容を定めた指導計画の作成が必要と思われる。

○研究内容

【足さばきシートの活用】

右足前回りさばきで体落としの練習風景



【地域指導者による指導】

動きながら「つくり」「かけ」「投げ」の指導



【安全に配慮した段階的スキルシステム表】

受け身の色別と受・取のスキルレベルを示した表図



【取り出し解説資料】

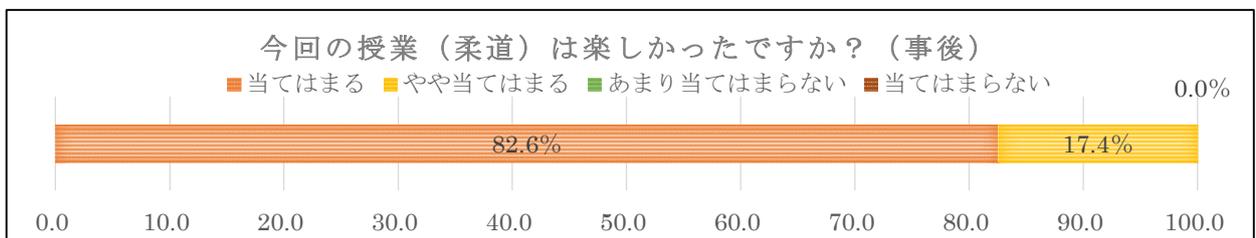
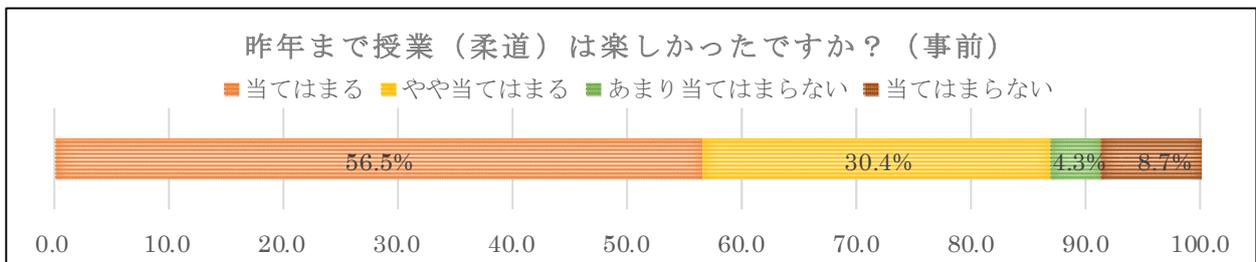
四種類の足さばきごとに技をまとめたシート



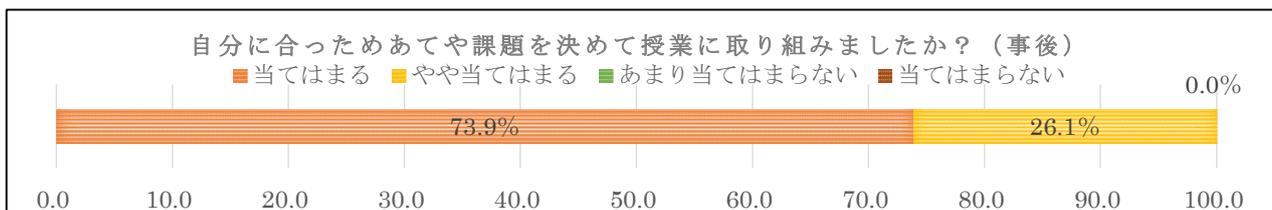
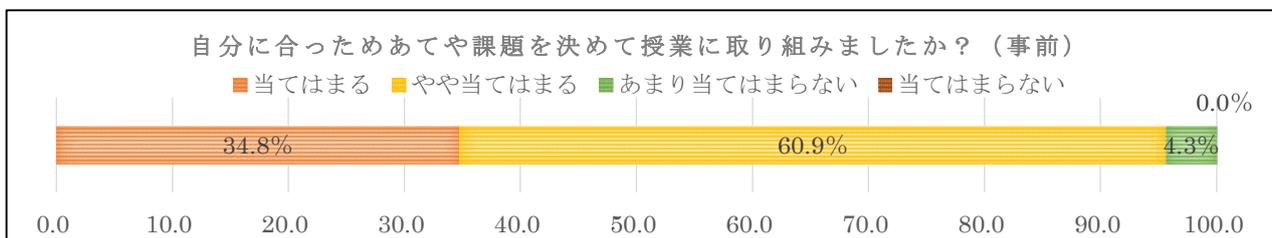
【柔道授業アンケート結果】

授業の事前・事後アンケートによる生徒の意識の変容

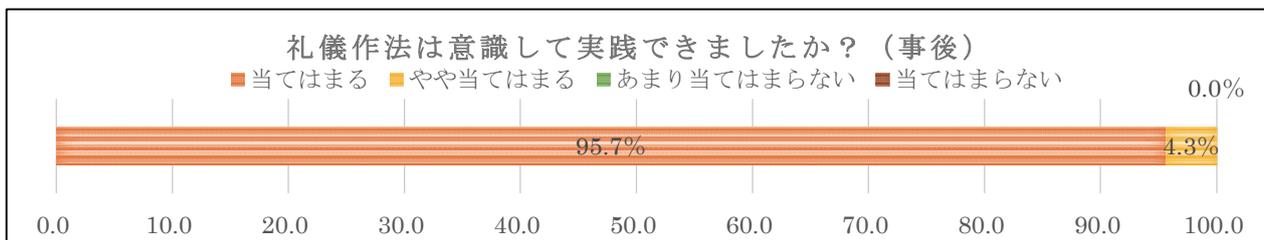
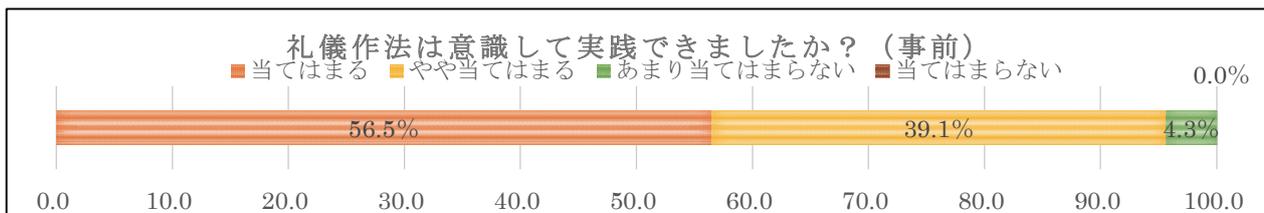
①授業は楽しかったか。



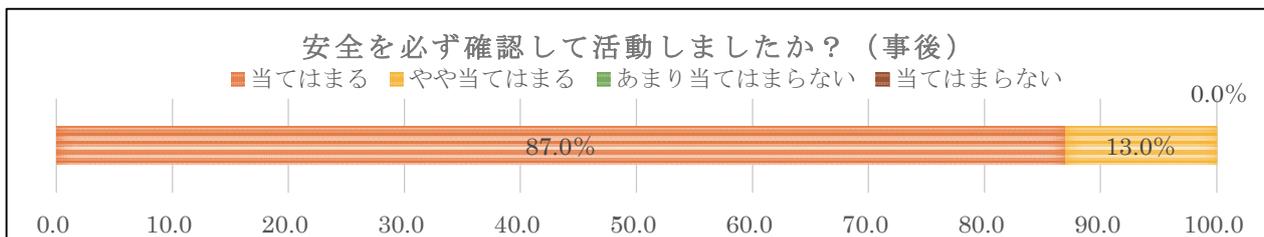
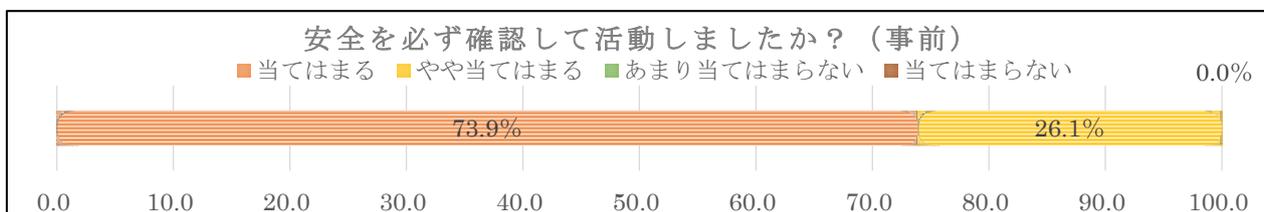
②めあてや課題を決めて授業に取り組んだか。



③礼儀作法は実践できたか。



④安全確認はできたか。



【武道指導における今後の方向性】

生徒が意欲的で安全に取り組む武道（柔道）授業を、目指すための取り組み

個人の能力に応じて、安全面の指導を重視すると、どうしても教師主導型になり、自主的な活動につながらないため、特に初歩的段階の生徒の指導・支援の在り方について検討が必要と思われる。また、今回の地域の指導者と連携した授業実践で得たものを、これからの授業にどのように生かしていくか整理し、生徒の実態に即した指導計画の作成が必要である。

地域の指導者とはじめて柔道指導を担当する教員との連携による安全な指導の在り方

学 校 名 新城市立千郷中学校（愛知県）第1・2学年

全校生徒数 336名（男子168名 女子168名）

種 目 等 武道（柔道）

電 話 番 号 0536（22）0362

学校メールアドレス chisato-jh@city.shinshiro.ed.jp

1 研究のねらい

- (1) はじめて柔道指導に取り組む保健体育科教諭が、地域の指導者と連携し、安全な柔道指導ができるようにする。
- (2) 地域の指導者を活用し、柔道の伝統に触れさせるとともに、技能の向上を図る。

2 研究の取組体制

(1) 地域の指導者と保健体育科教諭との連絡会の実施

- ①単元が始まる前に、地域の指導者とともに指導計画立案のための会議を実施する。
- ②事前に地域指導者が講師となり、柔道指導について保健体育科教諭が研修を受ける。
- ③施設・設備の安全や配慮を要する生徒の確認を行う。

3 研究の概要

(1) 地域の指導者の協力を得た学習指導の推進

学校評議員のA氏（柔道有段者）に相談。A氏から紹介された市内のB氏に地域の指導者を要請し、受諾を得た。B氏は高等学校の保健体育科教諭をされており、数年前に退職された。柔道六段の段位を持つ方で、はじめて柔道指導に取り組む本校にとって柔道の指導から施設設備の管理面も含め、細部にわたる指導がいただける機会となる。

実際の授業では、地域指導者には、1・2年生の授業の指導補助を依頼し、担当教諭の指導を生かしつつ、留意点について示範を含め細かく指導していただいている。

(2) 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

- ①担当教諭が実技講習会で習得した内容、地域の指導者と相談した内容で安全に留意し、段階的、体系的指導を行う。
- ②地域の指導者の柔道に対する理念のもと、授業の導入部では、柔道学習に対する心構えを学ぶ時間を確保している。
- ③授業では、担当教諭と地域指導者の2人で生徒個々の実態をつかみ、課題のある生徒については、示範をするなど、個別の指導を実施している。

○生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 毎回授業前に、担当教諭と地域の指導者が、本時のポイントや安全面へ配慮するために必要なこと等を、入念に打合せをする。
- 2 受け身の練習を毎回徹底して行うことによって怪我の防止に努める。

○成果の意義と今後の課題

- 1 生徒の技術向上が図られた。また、柔道指導初心者である担当教諭が自信をもって安全な柔道指導ができ、生徒のみでなく、担当教諭の研修となった。
- 2 今回の指導を来年度にいかに関し、高めていくかが今後の課題である。

○ 研究内容

【伝統的な文化の習得】

日本の伝統文化「礼」の指導



【基本動作の指導】

基本の姿勢，組み方の指導



【段階的な基本動作の指導】

安全面への配慮から受け身の動作習得の徹底



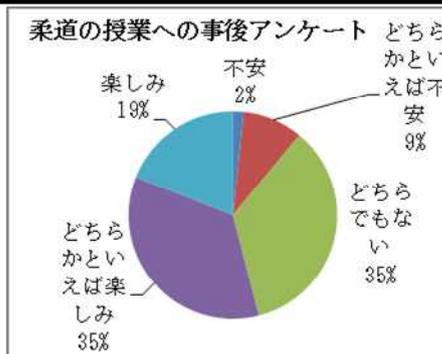
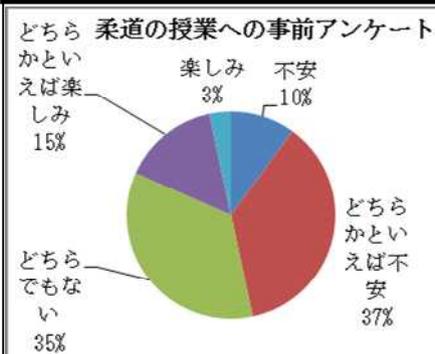
【個別指導の実施】

課題のある生徒への個別指導



【不安を一掃した柔道指導】

事前・事後のアンケートや生徒の振り返りからみた変容



「B先生のおかげで、安全に
けがなくできました。」「丁寧に
教えていただき、楽しくできま
した。」等の生徒の記録からも、
不安を感じていた柔道の授業
が、次年度への期待をもたらす
ものになったことがわかる。

【経験を活かした指導】

地域の指導者の経験を活かし，生徒の指導を充実する

「安全な柔道の指導とは，とにかく基本練習の徹底した繰り返しです。」「しっかり受け身をしなさいでは伝わらない。強く
畳をたたきなさい。」等，長年，生徒の指導に携わった地域の指導者だからこそできる指導が担当教諭の大いなる財産となった。
このことを次年度以降の指導に生かしていきたい。

地域の指導者との連携で、より安全で効率的な授業を行った実践例

学 校 名 江津市立江津中学校（島根県）第1学年
全校生徒数 246名（男子 141名 女子 105名）
種 目 等 柔道
電 話 番 号 0855（52）2068
学校メールアドレス gochu@gotsu-area-network.net

1 研究のねらい

- (1) より安全で効率的な柔道の授業のために、授業者と地域の指導者の連携を高める。
- (2) 地域の指導者と連携した柔道の授業により、柔道に対する生徒の興味や関心、技能を高める。

2 研究の取組体制

- (1) 地域の指導者と保健体育科教員との連絡協議会の設置
単元が始まる前に、地域の指導者と3年間の単元計画をはじめ、指導計画の検討や確認の会を開催し、各学年の既習内容や単元のねらい等を確認するとともに、生徒の状況等についても共通理解を図った。
- (2) 武道指導推進委員会との連携
県が設置する武道等指導推進委員会と連携し、県柔道連盟や各学校の実践等も参考に研究を推進した。

3 研究の概要

(1) 地域の指導者の協力を得た学習指導の推進

- ① 県教育委員に派遣を依頼し、県教育委員会と県柔連との調整によって、県柔連の登録者を派遣してもらった。授業は教員が進め、地域の指導者は安全指導や礼法指導、技術面の指導を担当した。また、授業前に地域の指導者と教員で、指導案を基に、授業のねらいや指導のポイントについて共通理解を図りながら授業を進めた。
- ② 体育教員が二人いるため、地域の指導者とともに三人での指導体制で指導に当たった。きめ細かい指導と基礎基本の習得に努めた。

(2) 安全指導の工夫

- ① 準備体操、補強運動の指導を継続して指導した。
- ② 見通しを持った指導とグループ学習の活用を行った。
- ③ 三人による指導体制での役割分担と個別指導を分担して行った。

○生徒の安全を確保するため配慮したこと。

- 1 ラジオ体操、補強運動の継続的な実践を行った。
- 2 三人一組を作り、二人が練習、もう一人は技のポイントや課題の確認と安全監視役を行った。
- 3 三人による指導体制での個々の役割分担と生徒への個別指導の分担を行い、指導を行った。

○成果と意義と今後の課題

- 1 地域の指導者との連携のためには打合せの時間が必要だが、いつも十分に確保できるとは限らない。その際、授業者による本時の指導案をもとに打合せを行うことで、時間を短縮し効率的で効果的な授業実践を行うことができた。
- 2 地域の指導者に単元の中で継続して指導していただいたことによって、地域の指導者が生徒の状況を把握しやすくなり、決め細かい指導を行うことができた。その結果、生徒の技能の習得や意欲の向上につながり、校内柔道大会も充実したものとなった。
- 3 全学年の授業に協力支援していただくことが可能であればよかったが、予算や時間の都合により、十分に達成ができなかった。そのため、クラスの人数が一番多い1年生に加わっていただいた。また、単元の中で最も重要なポイントに加わっていただくことができるようにしっかりと単元の中身を確認調整していく必要がある。

○研究内容

【三人での指導体制】

きめ細かい指導による基礎基本の習得



【打合せ用授業指導案】

授業のねらいや授業展開を明記し、打合せ時間を短縮した

5. 本時の学習

(1) 本時のねらい

①二人一組で体力を高める運動に全力で取り組んでいる。【関心・意欲・態度】(体力向上)

②大腰に必要な体さばきや相手を崩す工夫をし、しっかりと投げることができる。そして、大腰に対する受け身がしっかりとれる。【技能②】

(2) 本時の展開

過程(時間)	学習活動	◎教師の支援 古評価の視点(観点)(方法)
15分	・走力トレーニング、体力を高める運動(開立、閉股) ・あいさつ、健康観察 ・本時のねらいや学習内容を確認(楽道ノートに各自目標を記入) ・準備運動、回転運動	古三人一組もしくは二人一組で体力を高める運動に自己の目標達成に向け全力で取り組んでいる。 【関心・意欲・態度】(関心)◎ ◎本時のねらいを説明し、徹底を図る。(T1) ◎自己の目標の支援(T2・T3)
30分	◎大腰 ・寝返りの自由練習(固め技) 25秒×3本 ①グループ練習(かかり練習) (1) 静止した状態からの打ち込み・投げ込み (2) 動きの中での投げ込み ・まとめ ・次時の連絡	◎安全に行えるように説明し、観察しながらポイントを支える。(T1・T2・T3) ◎体さばき、崩しを確認できるようにポイントを支援する。(T1・T2・T3) ◎大腰に必要な体さばきや相手を崩す工夫をし、しっかりと受け身がしっかりとれる。【技能②】(観察)◎ ◎安全にできるように十分配慮するよう指導する。(T1・T2・T3)
5分	・健康観察、健康観察 ・まとめ ・次時の連絡	◎楽道ノートを使い効果的に振り返りをさせる。(T1・T2・T3) ◎次時の学習計画を確認し、見通しを持たせる。(T1)

(3) 本時の具体的な評価
評価の観点: ①運動についての関心・意欲・態度(体力向上)

評価できると思われる生徒の具体的な特徴	評価できないと思われる生徒の具体的な特徴	支援が必要とされる生徒の具体的な支援方法
①積極的に二人一組で練習を行い、各自の目標を達成している。	①ポイントや崩しに力が入らない、自己の目標に向け、努力していない。	◎ポイントや崩しに力が入らないよう、声かけを行い、支援する。
②大腰に必要な体さばきや崩しをきろんと行い、相手を崩すことができる。	②大腰に必要な体さばきや崩し方をきろんと行えず、受け身のポイントについて丁寧に説明するとともに模範例を	◎うまくできない生徒に対して、体さばきや崩し、受け身のポイントについて丁寧に説明するとともに模範例を

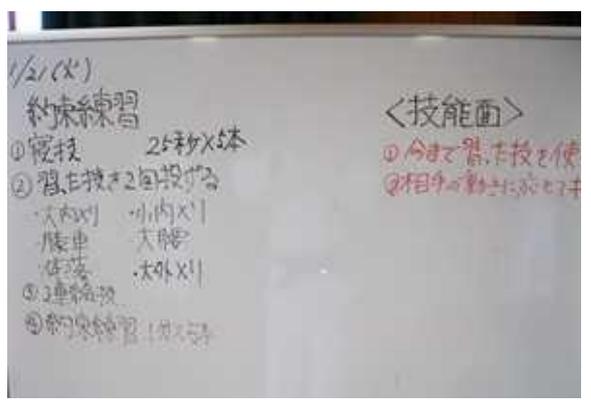
【技のポイントの解説】

地域の指導者と協力しての技の解説



【学習の見通しをもった授業実践】

ねらいや学習の流れを毎時間確認



【個への課題解決への支援】

地域の指導者との継続的な協力により
個々の状況の把握と課題解決の支援



【校内柔道大会】

第1学年～第3学年全校が集まる校内柔道大会
地域の指導者の参加

